

彼方 【かなた】

校長通信

H31.1.7

Vol.28

【メメント・モリ】



四月に新しい元号が発表され、残り四ヶ月しかありませんが、節目となる平成三十一年、2019年がスタートしました。全員元気に三学期を迎えることができ、とても嬉しく思います。

さて、終業式の日に皆さんに宿題を出しました。「振り返り」をもとに自分でライすべきことを決めてほしいという話をしました。3年生はどういう姿で卒業していくのか、2年生はどういう姿で最高学年となり、1年生はどんな姿で後輩を迎えるのか、考えてみましたか？目標に向けて本気で自分が必要なことを決めて、今できることに本気で取り組んでほしいと思います。

三学期の始業式で必ず伝えている言葉があります。それは「メメント・モリ」というラテン語です。意味は「人はいつ死ぬかわからない。最善を尽くせ！」という意味です。それは、今日を一生懸命生きることに、明日の未来を切り開いていくことを伝えていた言葉なのです。言葉は簡単ですがとても大切なことを投げかけてくれる言葉です。

昔教えた男子生徒で、本当に勉強が苦手で、勉強することが大嫌いな生徒がいました。彼は三年生になって、進路実現が目前に迫っても本当に変わろう

としません。私たち教師も親も代わる代わる話をしました。そのたびに「頑張ります！」と答えて、何もしない生活でした。ところが私立高校五校と県立高校を一校、合計六校の高校を受験しました。先生には「難しいから別の学校も」というアドバイスももらいましたが、聞き入れることはありませんでした。実際に受験が始まると、先生に言われた通りの結果となり、進学先が決まらなまま卒業式を迎えることになったのです。そんな彼に残された進路選択は、公立高校の二次募集と通信制高校への進学、親の知り合いの会社への就職でした。その中で彼が出した答えは「公立高校への進学」でした。ようやく本気で勉強しようと思ったのです。それからの彼は目を見張るものがありました。三年生は卒業前の特別日課に入っていました。朝早く登校し、放課後は夜まで学校に残って勉強していました。学級の仲間も何とか力になりたいと一緒に勉強に付き合ってくれていました。わからないところを質問し、自分でできるまでやるようになりました。できなかったことができるようになったり、分からなかったことが理解できるようになったりすると面白いように勉強がはかどっていきのです。学校に朝七時に登校し、他の三年生が帰った後夜八時過ぎまで残って勉強し、帰ってから二時間、一日合計八時間から九時間ほどの勉強時間を確保して取り組んだのです。一四年間そんな勉強に打ち込んだことは一度もありませんでした。卒業式後も二次募集の試験日前日まで毎日続けたのです。結果は、見事合格でした。彼や両親以上にクラスの仲間が本当に喜んでいました。その

時に彼が話してくれた言葉は今でも忘れません。「俺、今までさんざん周りに迷惑かけたけど、本気で勉強できて本当に良かったです。勉強の面白さを先生に教えてもらえてありがたかったです。俺みたいな加減な人間のために本気でかかわってくれる仲間がいてくれたことに心から感謝です。高校に行つて周りで困っている人がいたら、今度は自分ができることをやってあげたいと思います。ありがとうございます。」そう言って、巣立っていきました。

誰にでも一生懸命に生きるチャンスは与えられています。「命」は「時間」です。自分に与えられた「時間」をどう使うかは自分の心のままです。何にでも使えます。でも自分で決めなければ、何となくボーっと生活したり、無駄に時間を費やしてしまったりします。どう使えばよいかというのを学ぶのも学校生活です。学校教育目標「磨き合い・支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」を意識したり、学年や学級、委員会、部活動の目標を意識したりすることが、「時間」の使い方になるはずですが、まだ決めていない人は、是非周りの誰かから「ありがとう！」と言ってもらえるような行動を一日に一回はやってみてください。それも他から「よしなさい」と言われてやるのではなく、自分で考えて自分から行動してほしいと思います。

今日は、①限りある「命」②「時間」を大切にしたい、③誰かのために、笑顔になれることを本気でやってほしいという二つのことを皆さんにお伝えしました。今学期も、もうワンステップ素晴らしき白山中をめざしてがんばろう！